

りとにゅーす

No.65 2012.4.1

図書館の情報を
携帯でチェック!!編集・発行 岡山理科大学図書館
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
<http://www.lib.ous.ac.jp>

ネット時代の読書の意義

副理事長
加 計 役

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから本学での4年間で自分自身の成長のために有意義に過ごしていただきたいと思います。大学生活は、それまでの学校生活と異なり何よりも学生一人ひとりの自発性が重んじられ、また、自発性があればこそ大学生活が可能であると言えます。

私事になりますが、本学と交流協定を結んでいるアメリカ合衆国のフンドリー大学へ留学した時の経験をご紹介します。

まず、留学して気づいたことは彼らアメリカ人の自己PRのうまさ膨大な読書量でした。講義において担当教授が学生達を一人ひとり指名して意見を尋ねる。それに学生が答える。その答えについてさらに教授が質問する…。この過程がどんどん繰り返されていきます。昨年、日本でも放映されました、「ハーバード白熱教室」を教室で行っているようなものです。

彼らの答弁を聞いて気がついたのは、例えば、一つの議題に対して「YESかNOか」という二者択一をするケースで、YESであってもNOであっても、その理由が一人ひとり異なるのです。最初は、ただ単に国民性の違いなのだと解釈していたのですが、ある日図書館へ行って驚きました。そこでは、同じ教室で学んでいる同級生達が必死に読書をしているのです。「何をしているのか」と尋ねたところ、「今度の講義に備えているのだ」という返事。周囲を見渡して見ると皆が、読書に集中しており、それも数冊の本を常時、並行して読み進めている様子でした。そして、読書こそが彼らの自己主張の原動力となっているのだということを実感したのでした。

近年、インターネットの急速な普及は、私たちの日常生活に大きな変革をもたらしました。チケットの購入を始めとした様々な物品等の通販、JRや航空機、ホテルの予約、そして、あらゆる分野の情報収集に今や欠かせない存在となっています。皆さんも自分の専門分野から趣味の分野までインターネットで情報収集をなさっておられることと思いますし、中でもウィキペディア(Wikipedia)は、まさにインターネットの百科事典的な存在として世界中で多くの人々に利用されております。

ここまで普及して来ますと、「情報収集もインターネットで十分」という考え方も一部に現れ、皆さんの中にも「わざわざ

本を購入したり、図書館で借りてまで読書をする必要があるのだろうか」と疑問に思われている方もいらっしゃると思いますが、私は、「ネット社会となった現代であればこそ読書を!」と提言し、次の一節をご紹介します。

「…一冊の書物はわれわれ愛書家に総合的な喜びを与えてくれます。単に情報を与えてくれるだけでなく、目の前に『本の世界』という小宇宙(ミクロコスモス)を繰り広げてみせてくれます。

いったい子供を育てるとき、栄養だけを考えてサプリメントや点滴で済ませる親がいるでしょうか。そんな親はいません。子供を育てるには、まず母乳にはじまって離乳食、次いでふつうの食事、それからリングをかじらせたり魚の骨をしゃぶらせたり……と、いろいろなものを食べさせます。そのとき子供はアゴを動かし、嗅覚をはたらかせる。また味覚を養い、テーブルの上に並べられたご馳走を見て視覚も楽しませる。五感すべてをはたらかせて食べるようになります。それによって子供は成長するのです。もし子供がサプリメントと点滴だけで育てられたなら、口やアゴも丈夫にならないだろうし、味覚、視覚、嗅覚その他の感覚もほかの人のようには発達しないでしょう。

その意味いえば、本というのは『精神の食べ物』である。インターネット情報はサプリメントにすぎない。」
(楽しい読書生活「1. ネット時代の読書」- 渡部昇一著- ビジネス社)

この一節こそがネット時代の読書のあり方と意義を端的に表しているのではないのでしょうか。そして、さらに一歩進んで、読書生活を続けていきますと、その人にとってかけがえのない書物に出会うことがあります。「人生にはその人の一生を左右する様々なめぐりあいがある。師、恋人、友人、敵…。しかし、ただ一冊の書物がしばしばそれらにもまさる決定的な影響を与える場合がある」とは、ドイツの文豪ゲーテの言葉ですが、このような書物に巡り会うことこそが、読書の醍醐味であると言えます。

これは皆さんにも体験できることであり、また、是非、体験していただきたいことなのです。本学の図書館がそのための一助となり、皆さんが4年間の大学生活を読書生活として楽しめますことを心から願っております。